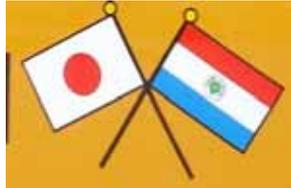


*この事業は日本大使館の「草の根・人間の安全保障無償資金協力」により実現しました。

パラグアイ共和国



パラグアイ消防隊へ水槽付ポンプ車を寄贈

対象地域：パラグアイ消防隊
内 容：水槽付ポンプ車6台
【東京都、北海道、徳島県の団体・自治体より供出】
輸送過程：2006年12月 川崎港より第一便出港
2007年1月 川崎港より第二便出港
2007年1・2月 イキケ港(チリ)第一・二便入港
陸送
2月 アスンシオンへ第一・二便到着
4月 引渡しセレモニー



パラグアイにおける消防車両の現状

パラグアイ共和国での消防組織・活動は、企業献金や個人からの募金、それぞれの組織が行う集金活動などの資金を基に、民間のボランティアの消防隊員(交代勤務)により行われています。消防・救急を管轄する省庁がなく、緊急車両を購入する予算の確保が難しいため、車両配備は各国の援助に頼っているのが現状です。日本はパラグアイにとって最大の援助国であり、パラグアイ消防隊もこれまでに何度かその援助を受けました。現在、都市への人口集中が目立ち、都市化により高層ビルやマンションが増えています。その一方で、基礎インフラの整備、公共サービスの提供が追いつかず、様々な都市問題が起こっており、緊急車両の不足、ひいては消火活動や患者の搬送に迅速に対応できないことが多いという実態が浮き彫りになっています。

日本人移住70周年記念式典

2006年はパラグアイへの日本人移住70周年にあたり、秋篠宮殿下が現地を訪問するなど様々な行事が行われました。同年9月8日にはイタグア市で記念式典が盛大に開催され、日本大使館も特に日系人の多い地域への支援に力を入れたそうです。その機会にあわせて、消防隊が必要とする消防車両6台を日本から取り寄せるための経費がパラグアイ消防隊に供与されました。

セレモニー & 車両の配備先

日本外交協会ではこれを受けて、水槽付ポンプ車6台を整備修理し、パラグアイへ発送しました。07年4月に引渡しセレモニーが行われ、在パラグアイ日本国大使館からは飯野建郎大使および担当者、パラグアイ消防隊の会長ラファエル・ヴァルデス・ペラルタ氏、消防隊員が出席し、マスコミ関係者も多数集まり、たいへん賑やかなセレモニーとなりました。車両は、ピラール隊、カルメン・デル・パラナ隊、イタ隊、コロネル・オビエド隊、カラガタウ隊、ホセ・ファルコン隊へ1台ずつ配備されました。



広場に集まる引渡しセレモニー参加者たち



インタビューを受けるヴァルデス消防隊長



消防隊員の様子



飯野建郎大使のスピーチ



来賓に対して敬礼する消防隊員



集合写真